



技術士だより

(社) 日本技術士会九州支部・九州技術士センター夏季号<第60号>(平成16年6月15日発行)

巻 頭 言

技術力を経済的価値に変換することに向けて

九州支部支部長 泉 館 昭雄(電気電子・北九州)

さくら散る、梅こぼれる、牡丹崩れる、椿落ちる、と日本の春を語る言葉の豊かさを改めて感じます。季節の走り方は、その年年で違いますが、大方の順序は変わりません。一方私共技術士会、技術士を取り巻く事象は、見た目には予告無しに出てくるもの、気付いてびっくりする事、なるほどと感心するもの、さまざまです。昨年は、田中前支部長の長期入院・ご逝去、修習技術士の劇的増加、H17年度全国大会九州開催予告等がありました。

技術士会は、会社のように多くの人々が場所、時間を共有しておりません。職務分掌、権限が明示され、相応の報酬を得るわけではありません。会社或は役所とは、大きく異なる条件の下での、活動となります。この活動意欲を支えるのは、“志”、日本の、地域への貢献をとおして、エンジニアの社会的存在感を濃くする事、そのステイタスの向上が日本のために必要であるという事に依拠します。

ここで社会に、即ち行政、省庁、自治体、大学・高専等教育機関、各種企業、公益機関等に、その存在感を、認知され、評価されるには、技術士らしい活躍をし、成果を上げ、且つこれに相応しい報酬を得る事が必須である事、これは申すまでもありません。

ここで強調致したいことは、技術士が個人で保有する高い応用能力、知識・経験・ノウハウ等を、経済的価値に変換する技術の重要性と、この部分への注力が、薄いのではないか、もっと濃くする事が必要ではないかということです。「技術・知的資源をビジネス・経済成果に変換する技術経営能力」が必要です。建設系、産業系という専門分野により、多少は異なるでしょうが、技術を経済的価値に変換する手立てについて注力する事の必要性を強く感じております。

先輩諸氏の汗により、商的契約、技術的契約とも手法はほぼ確立しています。

CPDは、技術力を継続的に、維持・向上を計るものですが、これの登録データの活用が課題です。昨年10月支部長会議で、九州支部からCPD登録実績活用(例えば官公庁での活用)策を提案しました。若干の経緯がありますが、本年4月になり、技術士会として特定省庁での活用に向けた動きが出て来ました。これも技術力を経済的価値に変換する方法と考えます。

(社)日本技術士会の推奨する標準的報酬額を、具現したいものです。

一方、技術士業務を行なう場合の、我々のCLIENTに対するスタンスは、いかなるものかということがあります。私共は、CLIENTの目的を達成するために、その仕事の構成要素を分担するという姿勢でありたいと思います。CLIENTの目的を達成するために、技術士が適切であるという相互の認知の下での業務です。即ち協業、協働という考えです。

社会で活躍する事は、社会に開かれた存在である事が必要で、内なる存在感だけでは生きていけない。外なる存在感を確かめつつ走らなければなりません。

技術士業務開発は、個人の自助努力とともに組織の開発が必要です。本部には業務委員会(小出委員長)が、これを所管しており昨年来前向きに取り組んでおられます。その具体的成果を大いに期待しています。九州支部には、業務開発委員会(松尾委員長)があります。関係者が汗を流している事を忘れてはならないと思います。ゆっくり、あせらず、着実に前進する事を、会員諸氏の前向きの提案を願っております。

急激に変貌する技術士会における青年技術士部会への期待

事業委員・北九州地区代表幹事 是永 逸生（機械、総合技術監理・北九州）

去る3月27日に九州支部で始めて第一次試験合格者の祝賀会兼研修会が行なわれた。その中で最若年者は大学2年生であった。

技術士補又は修習技術者として適正な実務経験を積むと24歳の若い技術士が誕生する事になる。

先日実施した第一次試験受験説明会では一つの大学から100名を越す受験希望者が参加した。来年は更に増加する事が予想される。

第一次試験合格者数は平成14年度3,585名が平成15年度は28,808名に急増した。これらの修習技術者が間もなく第二次試験を合格して技術士になってくる。

平成14年の第二次試験合格者の平均年齢は44.2歳であったが、やがて30歳台になり20歳台になるだろう。

これらの動きの為に既に試験会場の適正設置の検討や試験監督員の確保等予想外の課題も発生している。

これらの急激な動きは、2000年4月の技術士法改正によって、20世紀の技術士はコンサルタントとしての資格だけで産業界に十分に浸透していなかったが、21世紀の技術士は「科学技術創造立国」の実現を「中核者」として担い、人類に貢献する責務を負う技術士に変貌する過程であると言う事が出来る。

清野会長は昨年11月の西日本技術士松山大会で、現在の技術士資格者5万人を20万人のレベルに増やしたいとの方針を出された。これは考え方や仕組みが今までの延長線上の外捜法では論じる事の出来ない範囲である。

当然の事ながら年齢層は大幅に若くなり、IT、国際化の世界になるであろう。

今までの技術士は名を成し功を上げた業績を実務経験として纏めて、技術士の資格を取り、「高等な専門的応用能力を持って業務を行う者」と自負していた。しかし大部分が「助言者」であり、産業界に幅広く十分に浸透する事は出来なかった。残念ながら、JOC事故やトンネル崩落・原油タンク爆発等の一

連の事故を未然に防ぐ事は出来なかった。

新しい技術士法の狙いとして、今から多く輩出するであろう若い技術士は「助言者」でなく産業界の「中核者」として活躍する事が期待されている。

改正技術士法の最重要点の一つである「公益確保の責務」を技術士になる為の修習段階で身に付けてから「中核者」を実行していただきたい。これが新しい技術士の姿である。

そうする事によって様々な不祥事も未然に防ぐ事が可能になってくると考える。

修習技術者の修習ガイドにあるように、出来るだけ短期間で効率よく実務経験を積み、技術士資格をとって産業界で貢献して欲しい。この修習ガイドはその為に「**（社）日本技術士会は可能な限り指導や支援をします**」と言うものである。

このような動きの中で、青年技術士懇談会の位置付けが重要になってくる。45歳未満の会員で構成された会で、技術部門を超越した優秀なエンジニアネットワークを有効に活用し、会員相互の啓発を図ると共に技術士会発展に寄与する事が期待されている。

既に全国相互交流会が2回開催され、今後開催の全国大会には分科会の一つとして青年技術士分科会が組み込まれる事になっている。

このように受験を目指している技術者、第一次試験合格の修習技術者、二次試験に合格した若い技術士等々に対する相談相手や指導等若年層に視点を向けた技術士会の施策が必要になっている為である。

九州支部でも45歳未満の日本技術士会員及び九州技術士センター会員が横断的に所属する「青年技術士部会」を第7部会として支部の下部組織として新設する事になった。

九州各地区や支部との連携・推進者の選定・大部分が企業内技術士である事情等乗り越えるべき課題が多いが、技術士会の中で青年技術士部会の重要度が益々大きくなる事を理解して立派な部会に完成させて戴きたい。

理事会 四役・常設委員長会議 報告

(社)日本技術士会 理事 小出 剛 (農業・福岡)

I. 平成15年度第6回理事会

(平成16年3月10日)

(審議事項)

1. 「ビジョン策定特別委員会」の設置及び委員の委嘱(その後の経過を含む)

昨年11月開催の理事会承認事項を受けて、同委員会の「組織と運営方法」案が政策委員会から提案され承認された、主な内容は次の通り。

- ①委員会の期限は平成17年6月末。継続には理事会承認を要す。
- ②委員定数は20名以内、会長が会員の中から理事会に諮り委嘱。

次に委員候補者18名(検討グループと起草グループに区分)が提示された、検討グループは副会長3名と常設委員長。起草グループは企業内技術士交流会、青年技術士懇談会や女性技術士会等の代表と三好政策副委員長。下記メンバーの通りで承認された。

後日の初委員会において、委員長に小針副会長(政策委員長)、起草グループ座長に三好理事(政策副委員長)を選任した。現在まで、入念な起草グループ作業がなされ、各委員とのメール交換を5回行ったほか、全役員・支部長・部会長の意見聴取を経て、特別委員会を3回開き、先の5月12日に「技術士ビジョン21」として成案となった。5月19日理事会で審議・承認の後、6月23日開催の定時総会での報告・配布の予定。その後、各支部毎に説明会を行い、実行計画作成に入る。

〔検討グループ〕安藤正博(副会長)上野曄男(財務委員長)植村勝(報酬委員長)鎌田文明(副会長)小出剛(業務委員長)小針輝夫(副会長)高橋修(事業委員長)玉井義弘(倫理委員長)

〔起草グループ〕三好正夫(政策委員会副委員長)阿部紘巳(衛生工学)岩熊眞起(応用理学)上原義昭(水道)大野博久(建設)加藤薫(農業)柴川久光(電気電子)野村貢(建設)星俊臣(機械)山下正志(建設)

2. 名誉会員制度の変更について

平成14年度第6回理事会で、継続審議となっていた本案が倫理委員会から上程され、次の通り承認された。

- ①現在名誉会員である者は、名称はそのままとし、また会費免除制度も継続する。
 - ②名誉会員の要件は、77歳以上の会員であって「役員等経験者」、または「日本技術士会に対して著しく貢献した者」とする。
 - ③上記②における貢献度要件として、本・支部の役員種別と在任年数により、客観的に評価できるように点数制導入とした。(具体的には会誌またはホームページを参照)
- ただし、1～2年の実施により著しく公平を欠く事になれば、再検討する旨を付帯決議した。

(報告事項)

1. 15年度技術士試験結果

15年度第2次合格者は総監部門を除き895名(前年5,562名)

総合技術監理部門では783名(前年3,516名)

1次試験では「適正のみ」を除き20,833名で、合格率は45.47%となり、前年の8.58%から本会内の試験特別委員会設置等の成果もあり、大きく改善された。「適性のみ」の合格は7,631名。

II. 四役・常設委員長会議

(平成16年5月12日)

16年度第1回理事会(5月19日)への付事項

①15年度事業報告及び収支決算について

事業報告の特徴は支部活動状況を、前年度迄と比較して、特に詳述している事である。

- ②収支決算規模は収入1,453,071,550円に対し、支出1,289,243,716円、次期繰越は163,827,834円(内訳、一般;57,162,325円 特別;106,665,509円)。特別会計のプラス要因中、一次試験が全てマークシート方式になった事も大きいため、「九州会員の方からこのための受験料を下げるべきとの意見があった」旨を披露し、事務局でも検討する事となった。

③「ビジョン21」の承認について

④第46回定時総会（16年6月23日）開催の件

⑤16年度会長表彰者について

各支部、部会からの推薦により、合計61名。九州支部からは、永濱伸也、本田 整、上野篤秀、齋藤清美の四先生の候補。

⑥16年度新名誉会員について

新規則により、支部、部会から届出あった合計5名。九州支部からは、矢野友厚先生が候補。今年度から、名誉会員となられた内容の証書を会長名で授与する事となった。

（その他省略）

平成16年度第1回支部長会議 報告

九州支部支部長 泉館 昭雄（電気電子・北九州）

期日 平成6年4月14日

於 東京、港区、葺手ビル5F A会議室

出席者 清野会長、小針副会長、安藤副会長、竹下専務、畠山常務、大谷常務、黒澤理事、大島（北海道）、吉川（東北）、中山（北陸）、加藤（近畿）、牧山（中四国）、泉館（九州）、辻（中部＝幹事支部）各支部長

結果

*本部報告17件、黒澤理事報告2件、*支部報告9件について討議した。

<主要事項>

1. 会長挨拶；21世紀技術士ビジョン——科学技術創造立国の実現を目指して——は、数次に渉り試案を作っている。6月総会で報告する。今回で完成するものとは考えていない。

⇒なお最新案は、4月28日各地区代表幹事にメール配布しています。

2. 名誉会員制度の変更；満77歳以上の会員で、支部活動に貢献された方を対象に表彰する。評価累積点数に達したことが条件となる。

⇒九州支部77歳以上会員17名。

3. 会長表彰制度は、従前どおり。⇒当支部枠4名。

4. 二次試験関連 申込者数は、昨年比で大幅に増加する見込み。

全国	H14	H15	H16
63,534名	8,931名	26,000名	

平成15年合格者平均年齢は、40.8歳

5. 一次試験関連⇒福岡会場合格者数 2,600名

	H13	H14	H15
合格者数	2,200名	3,585名	28,808名
合格率	13.7%	15.0%	50.7%
合格者年齢	30代>40代>20代	平均37.9歳	

6. IT化推進状況；セキュリティーに留意して、会員の利便性と技術士会業務効率化を目指し構築している。部分的に利用開始した。会員が、本システムに登録し活用する事を要請する。

⇒支部IT委員会で本システム活用検討中。同報メール1000文字OK。

7. 技術士の技術士会入会法制化について調査中。他主要資格では法制化したものはない模様。

8. 平成16年度全国大会報告 テーマ；技術士は何かできるか、何をすべきか——

*9月15日、*於いて；ロイトン札幌、*大会基本方針；全国会員・北海道支部会員が参加しやすい環境を作る。⇒安く仕上げる。*分科会・記念式典に市民参加できる（事前確認）、*駅・ホテルに関連ブース（技術士活動、企業技術）を設け展示する *詳細技術士6月号掲載する。

9. 以下について討議した。

① CPD登録促進要請について；全国平均3.8% ⇒九州支部9.8%。北海道支部13.8% top.

登録モチベーション向上策検討が必要。前回支部長会議で提案した方策の一部が具体化する可能性が出てきた。

②支部主要活動報告。合格者歓迎会、定期総会、産学官合同セミナー。

③受託事業拡大について；契約事務処理は、本部、契約折衝は支部という役割分担について議論。

④会員増強対策等；合格者情報提供、指導技術者対策、地方整備局との定例会合（東北）、公務員入会率低い（東北、九州）⇒本部対応要、受験会場増設検討（盛岡に、東北）・検討委員会設置（九州）

⑤支部と県技術士会との役割分担、財政支援

- ⑥支部組織運営；かなり支部により異なる模様。
事務所経費について。
- ⑦業務開拓；大学からの講師派遣依頼対応（東北）、
業務委員会活動期待（九州）、職業法化検討を
（北海道）
- ⑧修習技術者支援活動；技術士補対策実行委員会
立上げ（東北）
- ⑨一次合格率の部門別バラツキについて（九州）

＜まとめ＞ 今回会議は総じて率直な意見交換および討議となった。技術士会発足50年を超え、各支部においてもその共通の課題と固有の課題があり各々の整理がなされる時期となっているのではないだろうか。又支部長会議と理事会、常設委員会、調査委員会との関係の議論も出た。
前回会議で、支部長会議結果主要課題は、「発議書」としてまとめ、会長に提出することとなっている。

行事・会合報告

平成16年度 第1／4期 九州支部CPD研修会

九州支部 CPD副委員長 田辺 努（機械、総合技術監理・福岡）

さる4月24日(土)、福岡商工会議所で九州支部主催によるCPD研修会が実施されました。九州支部として、A部門、土曜集中（6時間）、4回／年という参加しやすさと効率性を考慮した方法でCPDを実施しており、かなりの実績となっています。今回は平成16年度の第1回目です。内容は次の4題で行いました。

①「風景デザインの基礎」

講師：島谷 幸宏氏

（九州大学大学院・工学研究院教授）

②「私の出会った、忘れ得ぬ人達」

講師：黒江 浩氏

（日本技術士会・九州支部会計幹事）

③「災害技術支援の構成と実働」

講師：清水 博和氏

（日本技術士会・九州支部副支部長）

④「技術士の活用促進について」

講師：小出 剛氏（日本技術士会・理事）

今回の出席者数も約100名と多数の参加となり、盛況でありました。

議題①では、「風景」とは何かということからはじまり、風景とは人と自然、国土、環境の結果としての姿である。最近の日本は水のない風景が多い、これは水道網の発達と関連しており、神戸の大震災の時も水をとってこれる場所が遠く火災の鎮火が遅れた一因となった、自然水源の大切さを認識しておく必要がある、ということで、災害に対する強さを風

景からとらえることができるという一例を挙げられました。また、風景からその国の文化がわかるということで、例として日本ではカウンターが低いが米国では高い、カウンターを高くしているのは強盗に対する備えであり、保安度が悪いことを表している。このように風景はデザイナーの領域を超え技術者の領域にもかかわるということです。風景を形成するものとして自然史、気象、水、植物、動物、歴史、法律等がある。出雲大社のそばに駐車場を作った結果、風景が台無しになり付近がさびれてしまったという事例もあるとのこと。また、風景の感じ方は人によって異なる。それは人間の進化の過程、その国や地方の環境・文化、その人の個性、さらにその時の気分によって変わるということです。人間の進化→危険を感じさせるものは評価が下がる、環境・文化→太陽の強さが異なるため北欧ではパステルカラーが好まれ南国はあざやかな色が好まれるといった例です。また技術者として風景をどう扱うかということで空間・時間のスケールを認識することが必要で、人の評価特性、色彩、形・素材といった基礎的な事項で知っておくべきことを話され非常に今後設計を行ううえでの参考になりました。よいデザインをするためには美しいものを美しいと感じる訓練や美しいものの形を覚えること、風景を言葉で表現する訓練をやったらよいとのこと。オリジナリティーを出すことよりも自然との調和を図ることや基礎的な事項を理解する能力が必要である。例

えば門は門、橋は橋ということがわかるように設計するべきであり、それがなされていない場合も散見される、ということを特に強調されました。

議題②では、2つの内容があり1つは講師の黒江氏と奥方が長崎県の崎戸という、昔炭鉱で栄えた町に釣りに行った際に愛犬とはぐれてしまい、17日間に及び探し続けやっと見つけることができた実体験を、崎戸の風土や町の人達とのふれあいを織り込んで本にし出版されたお話でした。本の名前を紹介しておきます。「犬を捜してくれた町」(黒江浩・京子著、近代文芸社、1,300円) 本で人々が優しい気持ちで素顔で生きている島として崎戸を紹介されたことで崎戸の町の人々にも感謝されたそうです。もう1つの内容は、黒江氏の家の隣にマンションが建つことになり建設業者と日照権について争った経験を話されました。建築基準法の不合理な点として、最低の基準だけしか書いてなく、後は住民と業者で交渉するようになっているが、費用(裁判に70万円かかる)や知識・経験上住民が業者と対等に交渉を行うのは現実的には難しい、もっと合理的で公正な基準を設けるべきとのご意見でした。現状では15万円くらいしか補償されないそうです。

議題③では、清水氏より様々な事例を通じて災害技術支援活動について話されました。平成15年の博多地区の水害では一般被害額が2,900億円にものぼっており、そのリスク管理として治水対策は重要である。清水氏の具体的対策案として、福岡空港付近の遊休地を活用しその地下に500m×500m×4m

程度の貯水槽を設置すればよいとのことでした。また、今ダム問題で反対運動があるが、洪水のリスクをかかえているのは流域住民でありそれ以外の人はその責任は負えないはずだ、というご意見でした。

議題④では、本部の理事であり業務委員長である小出氏より、技術士の活用促進について日本技術士会の考え方、活動の説明がありました。現状では技術士が十分有効活用されているとはいえない状況で、社会の中での認知度が低く、医師・弁護士・公認会計士等と比較するとさびしい限りであるというのは皆さんも感じられているところだと思います。この状況を改善するために具体的にどんな活動をしていくべきかを皆で考えていく必要があります。また、小出氏より紹介された熊本NPO作成の「有明海・八代海の再生に向けて」のビデオ研修も行いました。地球温暖化と有明海の水温上昇、潮受け堤防の老朽劣化、佐賀平野等の地盤沈下等を調査し、オランダで実例がある多目的堤防の建設を提言した内容でした。以上、研修会の概要について紹介しました。

なお、九州支部主催のCPD研修会の次回開催予定は平成16年7月24日(土)です。

内容としては日本技術士会本部より講師が来られ技術者倫理を中心に研修を行う予定です。皆様のご参加をお待ちしております。また、今後の研修会の講師について自薦、他薦ありましたら九州支部CPD委員会に連絡をぜひともよろしくお願いいたします。

平成15年度第2回合同役員会

支部業務開発委員会委員長 松尾 憲一(機械・総合技術監理・福岡)

平成16年5月8日(土)、平成15年度第2回合同役員会が、商工会議所605号室で開催された。

先ず始めに、田中穰治前支部長が昨年12月30日にご逝去され、そのご冥福を祈って黙祷を捧げた。次に、支部長後任選出の措置について、清水副支部長から経過報告があり泉館昭雄氏が前支部長の残任期間、次期支部長に就任することを、合同役員会で了承願いたい旨発言があり、拍手多数で承認された。

会議に入り、第1号議案の会務及び事業報告では、泉館支部長及び水上センター会長による平成15年度

総括報告と検証が行われた。

九州支部としては、「かなり活発に各種事業を推進したと自負している。」との報告があった。センターとしては、「平成15年度第二次試験合格者は、全国で総合技術監理部門を除き895名で、前年度合格者に比べて約6分の1と激減した。一方、第一次試験合格者は、全国で28,808名、対受験者合格率は前年度までの15%であったものが50%と大幅に上昇した。これは、若年技術士の増加を目指す法改正の結果と見ている。」という指摘は、世の中の大きなうね

りを感じさせた。

8 地区の代表幹事による地区の活動状況報告、9 つの常設委員会の委員長及び 6 つの部会の部会長による実績報告があった。

特に、北九州・佐賀・鹿児島・宮崎地区の定例技術研修会は、地域の特色を表しながら活発にそして元気に実施されているのが注目された。

第 2 号議案では、平成15年度収支決算報告が古賀事務局長から詳細に行われた。

また監査報告は、九州支部並びにセンター監事から、「事務局体制は、仕事量の増大に対応して工夫するようにして欲しい。」という異例の申入れがなされた。

第 3 号議案は、平成16年度事業計画（案）で九州支部の主な事業計画（案）は次の通り

1. 地域における産学官との連携強化
2. 修習技術者の研修対応充実並びに受験環境整備検討等
3. 継続教育（C P D）の推進
4. I T 化推進対応
5. 支部運営の透明化
6. 平成17年全国大会準備・企画等

の方針が示された。

また、センターの基本方針としては、「技術士国家試験制度の根本的変革の 2 年目でもあり、平成15年

度第一次試験合格者が昨年より激増しているので、第二次試験の受験者が増大することが考えられる。その啓蒙・普及活動は、重要な節目の年になる。」これに伴い、「技術士受験講座は、法人格を持つ(有)九州技術支援センターを主軸として従来通り行いが、合格者数の大きなうねりに十分対応する。」としている。

第 4 号議案は、平成16年度収支予算（案）について、九州支部と九州技術士センターの予算が計上され、古賀事務局長から説明がされた。

第 5 号議案は、役員新体制の承認についてであり、副支部長は池田義實氏（建設）、是永逸生氏（機械・総合）、藤永正弘氏（建設）となる。清水博和副支部長は退任される。

常設委員会では、技術士だよりで健筆を振われた完戸鶴広報委員長が退任され、棚町修一氏がバトンタッチを受ける。特別委員会としては、全国大会実行委員長に甲斐忠義氏、一次受験会場検討委員長に藤永正弘副支部長が兼務される。

何れの議案も拍手多数で原案通り承認となった。

今回の合同役員会では、技術士国家試験制度の根本的変革がもたらす若年技術士激増への対応に対して、いかに先見性を持って臨むかが大きく問われた会議であった。

部会報告

第一部会技術研修会

講 演 3 題

第一部会長 野見山益生（機械・福岡）

平成16年 2 月 7 日 参加22名（博多第一ホテル）

九州新幹線の電気設備

技術士（電気電子）平山賢治先生

平成16年 3 月開業の九州新幹線（新八代～鹿児島中央間）の電気設備に関し詳細な説明を受けました。

①概要

九州新幹線は新八代鹿児島市間を結ぶ工事延長127.6kmの路線で最高速度260km/h 最小曲線半径4000m最急勾配35‰軌道中心間隔4.3m電車線の電

圧単相交流25000Vで電気設備の建設に当たっては高速架線、運転保安システム等の採用により、高速性・安全性・信頼性の向上と建設費の低減化が図られています。路線は切取盛土15km（12%）トンネル88km（69%）橋梁9km（7%）高架橋16km（12%）で最短35分で走行します。

②列車制御保安設備

総合指令所に設けられた運行管理装置C T C中央装置と各駅に設けられたC T C 駅装置、電子連動装置、A T C 装置、転轍装置から構成されています。運行管理装置はダイヤ情報を基にC T C 装置を介して電子連動装置等を制御し列車の進路を構成し又A T C 装置は目標停止位置等の情報を符号化しレールを介して車上に電送することにより効率的且つ安全な輸送を実現します。情報伝送設備は、光ファイバーケーブルと光搬送端局装置の組み合わせにより

大容量で高速な情報伝送を行い沿線と駅及び総合指令所を有機的に結びます。

③九州新幹線の技術

軌道の種類は大部分がスラブ軌道を採用しレールの狂いが少なく保守が容易であること

耐震防護システムを導入し新幹線沿線の他に海岸線付近に地震計を設置し、いち早く列車を停止させる装置の採用、その他低騒音パンタグラフ等新技术が導入されています。

長寿命ストック型社会システムへの転換に関する研究活動

技術士（機械・総合技術監理）是永逸生先生

本研究活動は「ストック型社会システムの実現」をめざして、大学・行政・民間企業研究機関の専門家を中心に平成12年に発足した任意団体で、会員80名を超え下記分科会に分かれ現在活動中であります。

①自然共生システム部会 ②社会システム部会

③技術システム部会 ④総合理論部会

I. ストック型社会実現の為の基本的考え

戦後日本が構築してきた資源・エネルギーの大量消費の経済システムは経済成長の反面

①地球環境の劣化 ②資源、エネルギーの枯渇

③欧州に比べた生活の質の低さ ④高賃金に起因する国際競争力の低さ等様々な領域において構造的な問題を起こしている。例えば日本の家屋の寿命は30年であり他の先進国の1/3～1/5と大幅に短寿命で生活コスト高の要因となっています。

II、資源の生産と消費の問題 III、転換に必要な要素技術等今後幅広い具体的な活動計画を押し進めストック型社会の評価格付けに向かって活躍中です。

Fail Study-Report（失敗から学ぶもの海外2題）

技術士（機械・総合技術監理）松尾憲一先生

I. 水門用電動開閉操作機の事故改善

II. まがり傘歯車歯切盤の開発

今回私達が過去に失敗した事例を出して失敗から学ぶものというテーマで発表して頂きました。最近失敗学のすすめ（畑村洋一郎著）にもありますようにマイナスイメージを忌み嫌わずプラスの方向に活用し、失敗情報のデータベース化迄纏めたいと考えています。

「配電電圧の200V化の現状と将来動向」について

て、技術士（電気・電子）鹿島脩一先生から説明がありました。研修会終了後懇親会でより一層の成果を上げることができました。



第三部会技術講習会

第三部会活動報告

第三部会長 和田 洋二（金属・北九州）

第三部会では、去る2月7日、博多パークホテルで定例会合を行い、技術講演2件をお聴きするとともにH16年度活動計画について話し合い、骨子を決定しました。

《技術講演概要》

○題目「接着の理論とその実用状況」

北原 徳雄 氏（化学部門）

“接着”は、「同種または異種の二つの物体がその接触面に接着剤を介在させて結合する現象」と定義される。接着現象の要因として“固体表面のぬれ特性”および“結合”があり、それぞれ物理的・化学的アプローチによって理論付けられている。

講演では、“固体表面のぬれ特性”における“Zismanの臨界表面張力”に関する説明および“結合”の種類に“化学結合”、“水素結合”および“ファン・デル・ワールス力”があることなどについてわかり易く解説していただいた。

さらに実用化に関しては、住宅建材関連で社会的課題となっている“シックハウス症候群”への対応技術として“水性高分子イソシアネート系接着剤”

が実用化段階にあること、および、医療分野においては、“手術糸”を中心に実用化が急速に進んでいるとの紹介があった。

○題目「コンサルティングにも役立つ問題解決法」

宮田守次氏（金属部門）

講演者が長年取り組んでこられ、得意分野のひとつである“問題解決法”の基礎からその具体的適用手法について熱のこもったお話をお聴きした。

問題解決におけるデザインアプローチ段階で重要なことは、「制約・外乱条件の把握とその制御対策・打破」である。すなわち、「人間の心理として自ら壁を設けて、自縛状態になり、問題解決ができないとする、大きなマイナス要因がある」との指摘は大いに首肯するところである。

問題解決手法としては、大きくは“問題解決型”および“課題達成型”に分けられ、それぞれ目的合わせて適用することになる。着眼点は共通であり、①職場の5大使命（品質、コスト、納期、安全、モラル）、②4M、③三無などがあり、“問題の革新性”および“対策の革新性”の指標で評価し、目標や対策の妥当性を検証する。

《H16年度活動計画骨子》

(1) 会合／技術講演会：従来の3回／年を4回／年とする。開催日は原則として第一土曜日。テーマは、専門技術分野に限らず、技術者倫理、環境、経営など幅広い分野の題材を対象とします。

【場所】博多第一ホテル（予定）

- ・第1回；H16. 6. 5(土)。「代替天然ガス製造プロセスについて」（箆島秀利 氏）他
- ・第2回；H16. 9. 4(土)。「気体分離膜による揮発性有機化合物等の分離技術の動向」他
- ・第3回；H16. 12. 4(土)。「生分解プラスチックの現状と循環型環境社会における役割」他
- ・第4回；H17. 2. 26(土)。「技術経営とその課題」他

(2) 部会幹事：次のお二方に就任いただき、部会運営にご尽力いただくことにしました。

大里信義氏（総合技術監理・化学）、宮田守次氏（金属）

以上の施策によって部会の活性化を図っていきたいと考えていますので、会員各位の積極的参画をお願います。

第二部会技術研修会

講演 2 題

第二部会長 長野 紘一（建設・福岡）

去る3月16日第2部会の研修会をCPD委員会と共催で開催致しました。

開催日時：平成16年3月16日13時～16時30分

研修課題及び講師

(1) 技術が支える明日の暮らし

講師 九州地方整備局企画部長

田中慎一郎

(2) 映写会 「掘るまいか」

監督 橋本進一

会場及び参加人員

福岡商工会議所 86名

第一部 「技術が支える明日の暮らし」

わが国が技術立国を目指しているなかで、昨今の若者の理工ばなれは、技術者の世界のみならず各方面でその先行きが危惧されている。

その原因の一つに、公共事業に対するバッシングがあり、若者から技術者を目指す情熱を奪っているのではないかと云われている。

そういった中での「技術が支える明日の暮らし」の研修会であった。

国づくり、地域づくりの先導となる社会基盤は、歴史が示す通り常に次の時代の発展の基盤となるものである。

我々は公共事業要求論に対しては、反論すべき点はきちっと反論し、その一方で安全の構築や美しい日本の再生のための技術などをより一層高める時に来ている。

国土交通省は、その技術基本計画の中で、次の5つの技術研究開発を掲げている。

1. 安全で不安のない暮らしの実現
2. 良好な環境を取り戻し、美しい持続可能な国土を子や孫に引き継ぐ
3. 快適で生活コストの安い暮らしの実現
4. 国際競争力を高め活力ある社会の実現
5. 誰もが社会の一員であることを実感できる社会の創造

最後に講師は、今日の研修会は「技術士が支える

明日の暮らし」です、と我々にエールを送られた。

第二部 映画「掘るまいか」

物語は、豪雪の山村、新潟県山古志村小松集落。

外界との連絡は上り下り200m、7kmの中山峠し
がなく、冬は吹雪で越に越されず、病人が出れば医
者を迎えに行き、背におぶって峠越えをして連れて
きた。

この苛酷な状況を脱しようと、村人達で堀始めた
1,000メートルの遂道を貫通するまでの実話である。

村当局はそんなむちゃなど相手にせず、村人達は
つるはし一つで自分達で堀り始めた。

途中、村内に賛否両論の分裂を招き、そのうえ、
全長1kmの半分ほど掘り進んだところで、戦争が激
化し、中断を余儀なくされた。

戦後、村民の熱意が役人を動かし、「林道」として
認可され補助金が出て、昭和49年5月手掘りの遂道
はついに貫通した。

正に、「つるはし一つで遂道掘りに立ち向かった
村人たちの、16年に及ぶ精神とエネルギーの記録」
である。

この物語を拘置所の中で読んだ田中角栄は感動し
て、建設省に無理強いしてこの辺鄙な道路を国道に
昇格させた。

映画の中で手彫りの林道の隣に完成した立派な国
道トンネルの竣工式が映っていた。

元総理がなくなって5年たったそうである。

今風に云えば、費用対効果は、とか、役人の地方
支配の道具だ、等と非難も出るでしょうが、私にも
分かりません。

ただ、監督の橋本進一さんは「砂漠に落ちている
1本の針は見つからない。しかし、針の穴から砂漠
を見ることはできる」と云っています。

映写が終わった直後、期せずして拍手が湧きまし
た。何かを見ることができたのかなと思いました。

お知らせ

九州ものづくり・まちづくり技術フォーラム

ー産官学と技術士のつながりー

開催の目的

技術士全国大会は、「^ぎ技の連携・培う地域の新文
化」を大会テーマとして平成17年10月九州支部担当
により福岡市で開催される。大会の基本コンセプト
は、産官学と技術士の連携による技術士の活動の強
化対策を模索することにある。

全国大会の前年にあたる今年は、(株)日本技術士会
(本部)と共同主催で「産官学民技術士」からなる
標記フォーラムを開催し、環境ビジネスのとりくみ、
まちづくり技術、ベンチャービジネスのとりくみなど
の技術テーマをとりあげ産官学民と技術士の連携
事例を報告し今後の連携強化をめざしていくもので
ある。

なお(株)日本技術士会でこのたび策定された技術士
及び日本技術士会の将来ビジョンについて、清野茂
次会長自ら来福し講演する。

主 催	(株)日本技術士会 (株)日本技術士会九州支部
担当委員会	総務、業務開発、事業、CPD、広報、 第32回全国大会実行委員会
開催年月日	平成16年12月4日(土) 9:30~17:00
会 場	福岡県中小企業振興センター
参 加 者	300名(会員200名一般100名)
会 費	6,000円
開 会	10:00(受付9:30) 泉館九州支部長挨拶
講 演	10:35~11:50 「技術士及び日本技術士会の将来ビジョン」 (株)日本技術士会 会長 清野茂次

第Ⅰ分科会「環境ビジネスの創造」13:00~17:00

第Ⅱ分科会「まちづくり技術」13:00~17:00

第Ⅲ分科会「ものづくり技術」13:00~17:00

企業相談コーナー(無料)13:00~16:00

第31回 技術士全国大会(札幌)

日時 2004年9月14日(火)~9月17日(金)

場所 ロイトン札幌(札幌市中央区北1条西11丁目)
TEL 011-271-2711

テーマ 「社会貢献」

ー技術士は何ができるか、何をすべきかー

大会日程

9月14日 親睦ゴルフ大会、ウェルカムパーティー

9月15日 記念式典、分科会、交流パーティー

9月16日 テクニカルツアー、見学旅行(16、17日)

参加費用

大会参加費 8,000円

交流パーティー 8,000円

申込締切

平成16年8月9日(月) 16:00

詳細は、第31回技術士全国大会(札幌)実行委員会
事務局へお問い合わせ下さい。

TEL : 011-801-1617

FAX : 011-801-1618

【委員会情報】

九州支部 I T 推進の平成16年度の方角

支部 I T 推進委員会 大里 信義（化学、総合技術監理・北九州）

さる4月8日に行われた I T 推進委員会の結果決定された今後の方向についてご報告します。

当初は I T 化を九州支部独自で進める案から、本部同報メールを利用する案、などと紆余曲折がありましたがなかなか I T 化が軌道に乗るところまで行っていないのが実情です。この解決策について熱心に議論が行われました。その結果、本部同報メールのシステムと、九州支部が現在持っている組織や通信システムの特徴を生かしてヒエラルキー型（階層型）の情報伝達を採用するのが良いのではないかとということになりました。平成16年度はこのシステムの定着をはかり問題点をあぶりだし、解決していくということを重点的に行いたいと思っています。

このシステムを志向する理由やその実施の要点は次の通りです。

1. 現在地区代表幹事のもと、各地区においてすでに会員（支部会員、センター会員を含む）のメールアドレス、ファックス番号などの把握はかなりなされており、それに基づいて地域独自の必要な情報は地区の代表者から、メールが可能な会員にはメールで、そうでない会員にはファックスその他で合理的に行われているという実態があります。

このことは九州支部が持っている大きな強みです。今現在はこのような強みを生かすことなく支部事務局からいきなり会員全員にコストのかかるファックス通信をしているという不合理を行っているのではないだろうか？この状態に少し手を加えれば地区地区で代表幹事や各部長が中継センターとして働くことにより効率的な情報発信システムが可能となるのではないだろうか？という問題提起がこのシステムを志向する発端です。

2. 今現在支部全体にわたる情報の発信をアイファックスに頼っているのは、メールだと一時に数百人という単位の同時発信ができないことが主な理由です。

各県単位のような数十人オーダーの会員相手だとメールを主体として情報を発信し、それが出来ない会員に対してはファックスまたは書簡という合理的なきめ細かい対応が出来やすいと思われます。

3. 従って今後の方向としては支部からの情報の発信は各地区代表幹事または第1から第6までの各部長を通じて会員（センター会員を含む）全員へ浸透させるというヒエラルキー型を志向するのがよさそうだという結論になりました。

このような方向を進めるに当たっては地区代表幹事、各部長の方々の負担が増えることが予想されます。この対策としては I T 推進委員が良く支援をするという事と、システムの上で工夫して出来るだけ負担がふえない様に緩和する措置を講じるつもりです。

次に各個人の対応ですがまず、いままでファックスで受けていた情報を出来るだけメールで受けるように地区代表幹事または部長に申請していただく様お願いします。このことで通信費用を大幅に節約し早く質の高い情報が得られるようになります。講演会出席などの回答を要する場合も今まで電話で行っていたものを転送メールで支部事務局に直接回答できるようになります。操作は簡単です。ファックスまたは郵送の方は今までどおりの対応になります。そのほかの詳しい情報などは支部または本部のホームページに掲載いたしますのでメール環境のある方はそちらにアクセスしていただければ、安く、質の高い情報を受けることが出来ます。また正会員の方で本部のシステムに登録（P E 10月号 p 36）していただければ会員同士が業務遂行にお互いの専門知識や経験を効率的に生かすことが出来る情報交換に進めるようになります。ぜひ支部の正会員になり本部のシステムに登録していただく様ようお願いいたします。

地域だより

福岡

青技懇主催『第3回支部交流会』 参加報告

福岡青年技術士ネットワーク運営委員長

西井 康浩（建設）

平成16年5月15日(土)10時30分から12時、東京都港区虎ノ門2-9-14発明会館7階会議室において、標記交流会が開催された。今回、九州地区が初めて参加したことで、やっと全地区が揃う会議となったとの報告があった。交流会は、清野日本技術士会会長、佐藤修習委員長も参加された。九州地区は、九州支部より推薦を受けた福岡青年技術士ネットワークが代表して参加してきた。

主要な議案は、①各会の活動報告（各地区）、②青年技術士懇談会組織改定に関する報告（本部青技懇）、③全国大会の青年技術士分科会（北海道、青年

技術士協議会）、④修習技術者実行委員会の紹介（佐藤委員長）、⑤会長挨拶（清野会長）、⑥その他、であった。

総じて各地区の活動は、研修会を中心とする運営ではほぼ共通していた。ただし、活動拠点の偏りを課題とする地区が多くあった。本部青技懇からは、政策委員会から要請されている若手技術士の意見集約、青技懇の組織形態の再考に関する紹介があった。次に、今年9月北海道地区で開催される全国大会において、初めての試みとして青年技術士分科会が開催されることと、その協力要請があった。佐藤修習委員長からは、修習技術者のための修習ガイドブックの紹介があった。最後に、清野日本技術士会会長より、科学技術創造立国の実現を目指す21世紀技術士ビジョンが紹介され、公共の利益に貢献する技術士像についての挨拶があった。

今回初めて全国の青年技術士の組織代表者と直接話し合う機会を得たが、どこも技術士会活動における社会的な義務と責任について苦慮しているようで、今後も継続して協議することとなった。

佐賀

技術士の活動

佐賀地区代表幹事 藤永 正弘（建設）

任意団体佐賀県技術士会を発展的に改組したNPO法人技術交流フォーラムも正会員、賛助会員を含め約80名となり、技術でもって社会に貢献する基盤が出来つつあります。

これまで、まちづくり、住民や諸団体との交流・協働、若年技術者研修、地区CPDの定期的実施など少人数の中での活発な活動は評価されるものと判断しております。

平成16年度総会は5月22日ですが、さらに、広報と研修および新規事業の部門を充実させることを提案します。広報はホームページの利活用を含め外に向かった広報と協働を、研修は行政、大学を含め広く建設系諸団体で研修システムについての研究を行うことを検討します。また、新規事業の開発はN

PO法人としての社会貢献を収益事業を含む種々の手法で考案しようとするものです。

平成16年4月1日付けで佐賀県庁の組織が大きく変わりました。これまでの総務部・企画部・厚生部・経済部・農政部・土木部が全て本部に名を変え統括・くらし環境・健康福祉・農林水産商工・県土づくり・経営支援となっています。

「基本理念」オープン、現場、県民協働（計画段階から）、「最終目標」県民満足度を高める——生活者や県民の視点で、効率的に仕事をする組織がキャッチフレーズのようなようです。

注目は、全てに企画経営という名称の部署がもうけられ、マネージメント感覚が取り込まれていることにあり、財政悪化の中で行政サービスを低下させないよう、行政資源（財産、定員）の有効利用、最小投資で最大効果を図ろうとするものと見ています。

佐賀県は大きく変わろうとしています。佐賀地区も自らが協働の中心となって、自らの科学技術で社会貢献をする組織に進展していく段階に入ったようです。

大 分

大分県の補修事業に向けて

金光 範明(建設)

ゴールデンウィークを直前に控えた、去る4月28日に大分県補修・補強協会の設立総会を開催しました。協会員としては大分県内に本社をおく施工会社8社と、補修材料の専門メーカーと、特殊補修工法を持った県内外を含めた専門会社10社で構成されています。

設立の主旨としては、協会活動を通し補修・補強技術の研鑽を積み、技術社員を育成することによって、補修・補強事業を責任ある施工体制のもとで進めることを目的としています。

総会には、渡辺浩志大分県土木建築部長をはじめ、当技術士会大分県協会の吉良会長に祝辞を頂きました。吉良会長の祝辞の中で、「首都圏だけでなく地方都市部も新設の時代から維持管理の時代へと変わっていくと思われる。社会資本の維持のためには、

日々の追跡調査が重要であり、その中で主に施工に携わられる大分県補修・補強協会と、技術士会との接点を見出したい。」との祝辞を頂きました。

来賓挨拶の後、佐藤嘉明大分大学工学部教授より「コンクリート構造物の劣化診断」をテーマに講演をして頂きました。佐藤教授は大分大学の教授をされながら、地域共同研究センター長も併任されており、又日本コンクリート工学協会ではコンクリート診断士講習会の講師もされております。

協会では、協会活動の中で技術講演会・講習会の充実、コンクリート診断士資格の取得・支援等も挙げております。

今後、地域共同研究センターを含めた産学共同の研究・支援体制を取って行ければ大分県の補修・補強事業の活性化に結びつくのではないかと考えております。その時には、技術士会の支援が必要になってくると思います。

尚、協会事務局を私が担当することになりましたので、補修・補強分野、又協会について皆様のアドバイスを頂ければと思っております。

鹿児島

新年度スタート

地区広報委員 竹元 幹生(応用理学)

新年度の総会(4月17日に開催)によって下記のとおり事業計画が承認されました。なお、地区代表幹事など役員(理事、監事)は任期中のため変更なし。

1 事業計画概要

- (1)本部・支部の事業・活動(全国大会)への協力
- (2)第1、2次試験申込書配布説明会の開催、配布
- (3)第1次試験会場(鹿児島)への対応
- (4)会員名簿の作成と広報、啓発
- (5)青年部会活動の継続、推進
- (6)災害技術支援部会活動の継続、推進
- (7)県会主催C P D研修会の月1回開催
- (8)技術情報等の提供(随時)

2 会員名簿の作成

技術士制度の広報と啓発を念頭に、会員名簿を改定、発行する。印刷部数:1,300部

6～7月に配布予定

3 青年部会活動

- (a)技術講演会2回、現地研修会1回の開催
- (b)C P D研修会既往資料の編纂・冊子化・配布

4 災害技術支援部会活動

組織を再編し、活動を継続する。

H17年度に成果を編纂

5 C P D対応研修会

期日:毎月;第2土曜日、14:00～17:00に開催。

対象:会員全員、特に技術士補に呼びかける。

期日	講 師(部門)	期日	講 師(部門)
4月	青年部1回勉強会	10月	宮脇 優(電気)
5月	西山 哲郎(建設)	11月	前田 勉(農業)
6月	遠矢良太郎(森林)	12月	青年部2回勉強会
7月	秋野 義廣(農業)	1月	八木 章久(建設)
8月	田中健次郎(環境)	2月	井内 祥人(森林)
9月	萩原 清文(建設)	3月	福田 俊仁(農業)

6 技術情報の提供

- (a)C P D対応等技術情報の提供に努める。
- (b)技術士補の本会事業への積極参加を図る。
- (c)前年度までのC P D研修会資料の編纂と頒布

I

技術士に求められているもの

長崎県技術士会 沖 知一（建設・長崎）

技術士は、製造業や建設部門などの非製造業における、各分野で活躍しておられます。製造業においては、海外などとの自由競争により国内規制の保護が少なかったことから、合理化を進めたために好調な業績を出している業種もあります。建設関連の業種は、国内の様々な規制により守られてきたために、製造業では考えられないような業態が現存していると言えます。このために長引く国内不況による税収不足、緊迫する国と地方の財政状態により、公共投資における市場は大きな影響を受けています。当然のことながら、国民からはインフラ整備に対して向けられる目はますます厳しくなり、従来からの我々の業界システムに対して、さまざまな形で早急な変革を求める声も出ています。このような中、企業内における技術士は、業界やそれぞれが所属する組織内部において、重責を担っておられます。しかし、業界では競争の激化による組織の存続問題、または組織内部ではリストラ等と、気の休まる暇など無いような状況となっています。

このような状況下、技術士が技術者であるという立場でありながら、本来の業務からかけ離れた業務に奔走せざるを得なくなっています。私自身も、技術の現場からは、離れた業務の比重が多くなり、技術職なのか事務管理職なのか判らなくなることがあります。

これはある意味で、極めて悲しい現状であります。専門分野における技術士としての立場から、豊富な経験を生かした高度な応用力と分析評価に対する能力が生かされなければならない、と言う責務がありながら専念できない状況がある。これは苦境にあえている建設関連の業界においては、極めて大きな損失であるのではないのでしょうか。仮に、私も含めた技術士自らが、進んで現場を離れているのであれ

ば、それは大きな問題だと思います。建設関連に従事する技術士においては、コスト縮減やインフラ整備予算の効率的な投資を考えると、その存在価値や実力を本当に発揮すべき時代が到来したのではないかと思います。

身近な問題として、医療の世界においては、医療ミスなどが頻繁にマスコミ等で報じられています。医療・福祉業界でも高齢化などから、国の予算に占める医療費の高騰が、将来の日本に重く押し掛かっています。医療現場でも医者の専門的な技術不足、検査漬けのレセプトの出来高精算は、今後の国の大きな負担となることは確実です。

私達、建設業界においても、同様のことが言えるのではないのでしょうか。私の場合は、建設コンサルタントに従事しております。日頃の業務での事業の計画、調査、設計、分析・評価において、十分な経験と識見を業務に発揮しているのかが、疑問に思えるときがあります。たとえば、調査のボーリング等についても、安価な現地試験などを併用して、現地の構成地質や地形から適切な評価をする。設計面では、過去の事例等に基づくのみではなく、手法や材料の選定で工夫をする。このときに技術士としての豊富な過去の経験を、生かす必要性が出てくるのではないのでしょうか。今までは、発注システムから、なかなか独創的な手法を用いることは出来にくかった傾向は否めません。しかし、今後のプロポーザル方式など、調査、設計、施工などが、一括発注される機会が増えると、本来の技術士として実力の真価を問われる、時代がすぐそこまで来ているのではないかと思います。

技術士は可能な限り作業現場の最前線に帰るべきであり、それを許さない組織、個人が有るとすれば、それは淘汰させる時代であり、時代の趨勢と言えるのではないのでしょうか。限られていく予算の中で、効率的な公共投資をするためには、技術士の重要性は益々高まっていくものであり、それが責務であると考えます。日本も世界経済の中の大きな渦の中にあります。技術士の理念に立ち返り、個々人は微力でも国家・国民のために貢献するという意識を持つことが、今後の技術士に求められていることではないかと思います。

Ⅱ

NPO 法人 『大淀川流域ネットワーク』の始動

杉尾 哲（建設・宮崎）

大淀川は、南九州 3 県の 5 市 16 町 3 村にまたがる一級河川であり、流域面積は九州で 2 番目、本川の流路延長は 4 番目である。この流域内に、平成 2 年現在で 58 万 5869 人の住民が生活していて、様々に川を利用している。しかし近年は水質・水量が悪化し、昔の水豊かで清らかな清流の面影が失われつつある。このような大淀川を昔の姿に戻そうと、流域内の住民や NPO や団体が参加して、本年 1 月 24 日に「大淀川流域ネットワーク」が発足し、4 月 21 日に NPO 法人として成立した。

大淀川流域での河川浄化の取り組みは、これまでも様々に行われてきた。しかし、大淀川の水には、川だけでなく、森・海の関係、上流・下流の関係、都市地域・農山村地域の関係、行政区・所管官庁の関係など、水循環に伴う様々な問題が関係している。したがって、大淀川の水の問題を解決するには、流域の住民や団体等が一体となった取り組みと、産・官・学・野の各分野が一体となった取り組みが必要であった。そのためには、まず、住民や団体等が英知と力を結集することが必要不可欠であり、より多くの情報の収集や提供など情報の共有化を図る必要があった。

この NPO 法人は、大淀川流域で河川浄化等に取り組んでいる住民や団体等が情報の共有化を図りながら、住民や団体等が相互に活動を支え合い、多種多彩な連携による協働事業を推進することによって、官民一体となった自然環境の保全や川づくり・地域づくり及び文化の向上を推進することを目的としている。

活動としては、以下のような事業を行う。1) 大淀川流域に関わる情報発信、2) 大淀川ワークショップの開催、3) 川に関する人材を養成する「大淀川環境大学」の開催、4) 河川浄化活動の支

援、5) 日常的な環境モニタリングの実施、6) 大淀川の魅力を再発見するイベントの企画と募集である。

このうちの 1) と 2) は、流域の住民や団体等が情報の共有化を図ることを目的としたもので、1) として、流域の各自治会で回覧してもらう広報誌の発行を準備している。本年度に発行する広報誌は、第一号で「設立総会の報告」、第二号で「夏休みに開催される各種イベントの紹介」、第三号で「すこしリッチな秋の味覚と景色の紹介」、第四号で「大淀川の知識を深める」を特集する予定である。また、2) としては、7 月 3 日に宮崎市の大淀川学習館で第一回のワークショップを開催することになっている。

3) の大淀川環境大学は、流域の住民や団体役員を対象としたボランティア養成コースと、活動経験者やボランティア養成コースの修了者などを対象とした指導者養成コースを予定していて、流域内の自然環境や河川文化について講義し、人材の養成を図るものである。活動資金の助成申請が認められれば、8 月から、宮崎・都城・小林・綾の 4 会場で開講する。ボランティア養成コースでは、河川浄化の実習を行うことによって 4) の河川浄化活動の支援を図る予定である。また、6) の大淀川の魅力を再発見するイベントとして、8 月に流域内の各地で子どもたちを川で遊ばせることを企画しているので、子どもたちを安全に指導するための CONE、RAC および RESCUE 3 の資格を取得する「川の指導者の養成会」を 7 月に開催する準備をしている。

5) の日常的な環境モニタリングの実施は、これまで行政の手が届かなかった、河川浄化を推進する上で最も重要な活動と位置づけている。3) の大淀川環境大学の開講は、この活動を実行するための人材の育成も兼ねている。今年は、まず、流域住民に河川浄化への意識付けをしてもらうことを目的として、流域全体を対象としたごみマップの作成に取り掛かっている。この成果をもとに、流域住民が連携した流域一斉の河川清掃が実現しようと考えている。また、今年から全国水環境マップ実行委員会の主催による、全国の水辺での COD の一斉測定が行われることになったので、積極的に参加している。

本法人のホームページが、ようやくインターネットで検索できるようになった。ぜひご覧いただくとともに、ご支援いただくようお願いします。

（NPO 法人「大淀川流域ネットワーク」代表理事）

㈢)日本技術士会九州支部 組織

(平成16年6月現在)

顧問 水上信照(福岡:建設)

川崎迪一(福岡:建設)

支部長 泉館昭雄(北九州:電気電子)

副支部長 藤永正弘(佐賀:建設)

〃 池田義實(福岡:建設)

〃 是永逸生(北九州:機械・総監)

会計監事 黒江 浩(福岡:機械)

〃 鶴島郁之輔(福岡:建設・総監)

幹 事

福岡 池田義實(建設) 齊藤健男(建設)

武内重信(建設) 棚町修一(建設・総監)

長野紘一(建設) 吉竹正致(建設・総監)

野見山益生(機械) 松尾憲一(機械・総監)

小出 剛(農業) 松田研志(水道・総監)

松浦茂雄(環境) 矢野武彦(農業)

碓 俊明(電気) 甲斐忠義(建設)

北九州 長崎治夫(電気) 和田洋二(金属)

安西敏雄(金属) 小柳嗣雄(化学・総監)

佐賀 内山順治(林業)

長崎 平原宏志(建設・総監)

熊本 加来雄一(建設・総監)

大分 瀬口宏由紀(建設) 浜 光春(建設)

宮崎 西田 靖(建設)

鹿児島 竹元幹生(応用理学)

地区代表幹事

福岡地区 武内重信(建設)

北九州地区 是永逸生(機械・総監)

佐賀県地区 藤永正弘(建設)

長崎県地区 大橋義美(建設・総監)

熊本県地区 加来雄一(建設・総監)

大分県地区 吉良文至(建設)

宮崎県地区 新城精一(建設)

鹿児島県地区 稲田 博(建設)

常設委員会 委員長

総務委員会 池田義實(建設:福岡)

試験管理委員会 齊藤健男(建設:福岡)

業務委員会 甲斐忠義(建設:福岡)

広報委員会 棚町修一(建設・総監:福岡)

事業開発委員会 松尾憲一(機械・総監:福岡)

C P D委員会 内山順治(林業:佐賀)

災害・技術支援委員会 清水博和(建設:福岡)

I T化推進委員会 大里信義(化学・総監:北九州)

特別委員会 委員長

全国大会実行委員会 甲斐忠義(建設:福岡)

一次試験会場検討委員会 藤永正弘(建設:佐賀)

部会長

第1部会 野見山益生(機械:福岡)

[機械・船舶・航空・宇宙・電気電子]

第2部会 長野紘一(建設:福岡)

[建設・応用理学]

第3部会 和田洋二(金属:北九州)

[化学・繊維・金属・資源]

第4部会 小宮信行(水道:福岡)

[水道・衛生工学]

第5部会 小出剛(農業:福岡)

[農業・林業・水産・生物工学]

第6部会 松浦茂雄(環境:福岡)

[経営工学・情報処理・環境]

第7部会 田辺 努(機械・総監:福岡)

[青年技術士会]

事務局長 古賀 豊吉

九州技術士センター 組織

(平成16年6月現在)

会 長 水上信照(福岡:建設)

副 会 長 吉良文至(大分:建設)

〃 木下茂廣(北九州:建設)

監 事 向江宗利(福岡:経営工学・総監)

〃 日下部岩正(福岡:建設)

理 事

福岡 津城 正(建設) 真鍋和義(水道)

向江宗利(経営工学・総監)

北九州 西井康浩(建設)

垣迫裕俊(建設・総監)

沼尻健次(機械・総監)

佐賀 原田 彰(建設) 島内 明(建設)

長崎 山口和登(応用理学)

永濱伸也(応用理学)

熊本 山本祐司(建設) 吉田紘彬(応用理学)

大分 室之園泰昭(建設) 宮崎辰彦(建設)

宮崎 井川 仁(建設) 大田義信(建設)

鹿児島 山下国男(農業) 上野篤秀(建設)

常設委員会

業務企画委員会 木下茂廣(北九州:建設)

普及啓発委員会 津城 正(福岡:建設)

事務局長 古賀 豊吉

会員ニュース

☆(社)日本技術士会（九州支部）入会

(地区)	(区分)	(氏名)	(部門)	(上段:連絡先/下段:勤務先) (連絡先と勤務先が同じ場合、連絡先のみ)
福岡	正会員	姫野 清 化	学	〒811-3425 宗像市日の里 9-23-24 姫野技術士事務所 ☎・FAX(0940)36-0587
福岡	正会員	橋元 健二 建	設	〒818-0072 筑紫野市二日市中央街2-8-2ライオンズマンション二日市駅前705号 (株)オリエンタルコンサルタンツ九州支社 ☎(092)411-6209 FAX(092)411-3086
福岡	正会員	齋藤 雄三 建	設	〒811-1302 福岡市南区井尻 4-3-40-706 (株)吾水総合コンサルタント ☎(092)716-2100 FAX(092)781-4520
北九州	正会員	木下 茂廣 建	設	〒820-0105 福岡県嘉穂郡庄内町大字筒野839-2 清水建設(株)九州支店 ☎(092)716-2100 FAX(092)781-4520
宮崎	正会員	淵之上 勲 水	道	〒880-0924 宮崎市大字郡司分丙9814-9 (株)ダイワコンサルタント ☎(0985)50-5430 FAX(0985)50-6761
福岡	正会員	古賀 尚武 農	業	〒838-0141 小郡市小郡2448-1 大倉測量設計(株) ☎(0946)24-6587 FAX(0946)24-6994
長崎	準会員	浦川 栄一 水	道	〒859-6133 長崎県北松浦郡江迎町猪調免562-1 江迎町役場水道課 ☎(0956)66-2111 FAX(0956)65-3860
福岡	準会員	伊藤 英樹 衛生工学	士	〒811-1347 福岡市南区野多目 3-2-1-304 川崎設備工業(株) ☎(092)262-1501 FAX(092)262-9380
福岡	準会員	後藤 修次 建	設	〒811-3223 福岡県宗像郡福岡町光陽台 6-15-11 (株)建設技術研究所九州支社 ☎(092)714-2211 FAX(092)714-4814
鹿児島	準会員	池元 拓路 建	設	〒890-0066 鹿児島市真砂町39-14 今別府産業(株) ☎(099)256-4111 FAX(099)256-7118
鹿児島	準会員	吉富 寛律 航	空	〒899-4332 国分市中央 5-16、15中央アパート 205号 ☎(0705)2934-398
福岡	準会員	山下 修 環	境	〒835-0101 福岡県山門郡山川町大字立山1005 (株)柿原組 ☎(0944)22-5731 FAX(0944)22-2179
大分	準会員	木村 進 機	械	〒870-0395 大分市大字吉原 3 三井造船(株)大分鉄構運搬機工場 ☎(097)593-3754 FAX(097)593-3164
鹿児島	準会員	羽牟 浩二 水	道	〒891-0404 指宿市東方99-2 ☎(0993)22-2676
大分	準会員	山崎 哲義 建	設	〒872-0521 大分県宇佐郡安心院町大字下毛 安心院町役場 ☎(0978)44-1111
北九州	準会員	小畑 均 建	設	〒828-0074 豊前市大字下河内88-1 (有)共立コンサルタント ☎(0978)33-2331 FAX(0978)33-2479
熊本	準会員	田畑健太郎 建	設	〒861-4172 熊本市御幸笛田 7-10-12 九州旅客鉄道(株)武雄工事区 ☎(0954)23-5171 FAX(0954)22-2464
福岡	準会員	大隈憲二郎 建	設	〒814-0112 福岡市城南区友丘 4-1-5 玉石重機(株)熊本地域事務所 ☎(096)245-3441 FAX(096)245-3441
熊本	準会員	黒岩 恭子 生	物	〒860-0078 熊本市京町 1-3-3 ラフォーレ16番館201 (株)化学及血清療法研究所 ☎(096)344-1619
福岡	準会員	鳥居 敏彦 情報工学	士	〒816-0811 春日市春日公園 8-19-1 ウインザー春日公園204号 パナソニックコミュニケーションズ(株) ☎(092)574-4093 ☎(092)477-1796
鹿児島	準会員	桃原 隆二 建	設	〒895-0041 川内市隈之城町180-5 川内市役所農林水産課 ☎(0996)23-5111 FAX(0996)20-4705
鹿児島	準会員	徳永 幸生 環	境	〒890-0011 鹿児島市玉里団地 1-21-13 (株)小溝技術サービス ☎(099)256-0151 FAX(099)256-0153
佐賀	準会員	福岡 久美 建	設	〒849-2201 佐賀県杵島郡北方町大字志久 2313-10 佐賀県土地改良事業団体連合会 ☎(0952)30-0619 FAX(0952)30-0627
大分	準会員	辛山 鷹雄 建	設	〒824-0849 別府市扇山町 2組-3 別府市役所財政課 ☎(0977)21-1111 FAX(0977)26-4404

福岡	準会員	近藤 緑 建	設：〒812-0022 福岡市博多区神屋町4-3 ロイヤル神屋1301 ジェイアール九州コンサルタンツ(株)	☎(090)4844-2273 ☎(092)413-1062	FAX(092)413-1022
佐賀	準会員	福岡 稔浩 機	械：〒841-0205 佐賀県三養基郡基山町けやき台4-13-4 東京エレクトロン九州(株)	☎(0942)92-7830 ☎(0942)81-1833	FAX(0942)81-1753
北九州	準会員	小路 裕之 建	設：〒828-0021 豊前市大字八屋1899-3 豊前市役所建設課	☎(0979)82-8654 ☎(0979)82-1111	FAX(0979)83-2560
福岡	準会員	前原 光弘 建	設：〒811-1353 福岡市南区柏原1-26-73 (有)高尾設計	☎(092)566-8018 ☎(092)585-4834	FAX(092)585-5027
福岡	準会員	泊 清志 建	設：〒838-0215 福岡県朝倉郡夜須町大字篠隈138-9 ジェイアール九州コンサルタンツ(株)	☎(0946)42-2814 ☎(092)413-1025	FAX(092)413-1022
佐賀	準会員	坂井 和幸 建	設：〒840-2212 佐賀県佐賀郡川副町犬井道752 松尾建設(株)	☎(0952)45-1779 ☎(0952)25-4008	FAX(0952)28-9732
宮崎	準会員	川畑 幸一 建	設：〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1 宮崎大学大学院工学研究科	☎(0985)58-7343 ☎(0985)58-7343	FAX(0985)58-7343
鹿児島	準会員	井龍 辰夫 建	設：〒890-0067 鹿児島市真砂本町61-7604号 (有)鹿児島測量施工管理	☎(099)253-6513 ☎(0996)25-2129	FAX(0996)25-3765
長崎	準会員	内田 浩道 建	設：〒850-0053 長崎市玉園町1-11玉園ハイッ313号 オリエンタル建設(株)	☎(092)761-6933 ☎(092)761-6933	FAX(092)741-3399
鹿児島	準会員	池田 智大 建	設：〒895-0074 川内市原田町19-10-2 (有)鹿児島測量施工管理	☎(0996)20-1177 ☎(0996)25-2129	FAX(0996)25-3765
長崎	準会員	松永 貴寛 機	械：〒858-0923 佐世保市日野町29-11グリーンヒルA-2 西日本プラント工業(株)	☎(0956)48-3624 ☎(0956)48-3624	FAX(0956)48-3626
北九州	準会員	坂本 雅史 環	境：〒807-0822 北九州市八幡西区瀬板2-15-17サンコーポ陣の原1004号 環境エンジニアリング(株)	☎(093)872-5078 ☎(093)872-5078	FAX(093)872-5233

☆九州技術士センター入会

熊本	正会員	野澤 仁志 農	業：〒861-3206 熊本県上益城郡御船町辺田見266-1 愛和設計代表	☎・FAX(096)282-7633	
福岡	正会員	松永 敬治 建	設：〒811-1362 福岡市南区長住5-11-11-403 西日本技術開発(株)	☎(092)561-3313 ☎(092)781-0259	FAX(092)729-6529
福岡	正会員	水沼 道博 建	設：〒812-0053 福岡市東区箱崎1-27-22-1204 西日本技術開発(株)	☎(092)781-1177 ☎(092)781-1177	FAX(092)781-9599
福岡	正会員	満安 政幸 水	道：〒816-0983 大野城市月の浦1-17-1 サンリヤン月の浦201 (株)サンコンサル	☎(092)582-1290 ☎(092)582-1290	FAX(092)573-6247
福岡	正会員	姫野 素志 機	械：〒818-0036 筑紫野市光が丘1-14-2 パナソニックファクトリーソリューションズ(株)	☎(0942)84-2600 ☎(0942)84-2600	FAX(0942)84-5600
福岡	正会員	伊藤 実 応用理学	：〒818-0061 筑紫野市紫2-22-13-201 明治コンサルタント(株)	☎・FAX(092)925-9736 ☎(092)415-2500	
佐賀	正会員	松坂 寿信 建	設：〒841-0048 鳥栖市藤木町2106-8 (株)共和テック	☎(0942)83-0951 ☎(0942)72-3757	FAX(0942)72-1124
佐賀	正会員	盛永 保弘 農	業：〒840-0852 佐賀市中折町5-3 アルファ設計事務所	☎(0952)22-6371 ☎(0952)33-4728	FAX(0952)33-4876
北九州	正会員	城戸 和彦 建	設：〒822-0003 直方市大字上頓野605-3 山九(株)	☎(0949)26-1096 ☎(093)645-7254	FAX(093)644-7139
福岡	正会員	酒井 良 建	設：〒811-2109 粕屋郡宇美町桜原1-31-21 三井住友建設(株)九州支店	☎・FAX(092)933-4054 ☎(092)761-6044	
北九州	準会員	松本 光史 生物工学	：〒808-0111 北九州市若松区柳崎1 電源開発(株)若松総合事務所	☎(093)741-0931 ☎(093)741-0931	
北九州	準会員	山崎 真 機	械：〒803-0836 北九州市小倉北区中井3丁目1-25-107シテイルーム中井Ⅲ		
熊本	準会員	友寄喜一郎 建	設：〒860-0073 熊本市島崎1-32-22 (株)総合防災ソリューション	☎(096)325-1189 ☎(092)433-5511	FAX(092)481-0241
福岡	準会員	佐崎 洋子 機	械：〒812-0053 福岡市東区箱崎3-36-30-1108	☎(090)5294-2728	

福岡	準会員	高宮津留美	機械	〒812-0063	福岡市東区原田 1-19-33コーポ翠301	☎(092)622-9028
大分	準会員	神田 淳一	建設	〒870-0942	大分市羽田 1-3組 (株)幸測量設計事務所	☎(097)568-4426 FAX(097)536-0706
福岡	準会員	吉田 憲治	建設	〒819-0055	福岡市西区生の松原 4-38-12-1 扶桑建設工業(株)	☎(092)891-7490 FAX(092)474-7222
熊本	準会員	岩永 竜弥	化学	〒862-8017	熊本市上南部 1-9-1-102	☎(096)369-7259
福岡	準会員	伊東 博史	建設	〒812-0017	福岡市博多区美野島 1-18-8 エステート・モア博多グラン1011	☎(090)3326-6710
熊本	準会員	島田 英明	農業	〒861-4117	熊本市護藤町2573	☎(096)357-1647
福岡	準会員	新島 範高	農業	〒811-3514	宗像市田野1430-14	☎(0940)62-2668
長崎	準会員	田口美菜子	建設	〒859-3202	佐世保市上原町352-184グランディール二本松A103 大栄開発(株)	☎(0956)39-1750 FAX(0956)32-2711
福岡	準会員	大川 秀喜	電気電子	〒838-0814	福岡県朝倉郡三輪町高田920 光陽無線(株)	☎(090)6630-2532 ☎(092)593-6861
熊本	準会員	大里 義治	生物工学	〒862-0913	熊本市尾ノ上 1-25-4-A102	☎(096)382-5722
長崎	準会員	丸田 孝之	建設	〒857-1164	佐世保市白岳町120	☎(0956)32-8187
鹿児島	準会員	有水 伸一	衛生工学	〒891-0196	鹿児島市南栄 3-20 日本澱粉工業(株)	☎(099)267-7162 FAX(099)267-3844
佐賀	準会員	小今井将仁	機械	〒809-0021	中間市朝霧 1-27-7	☎(093)245-6902
鹿児島	準会員	森永 哲郎	生物工学	〒890-0081	鹿児島市唐湊 1-13-10-310	☎(090)5383-1068
大分	準会員	江嶋健一郎	水道	〒870-0954	大分市下郡中央 3-9-13ヴェルドミールII203号 (株)オクトコンサルタント	☎(097)567-9102 FAX(097)556-7711
大分	準会員	富田 裕久	水道	〒873-0004	杵築市宮司 1-2 ヤンマー(株)	☎(090)2350-4998
鹿児島	準会員	今井 宣弘	環境	〒896-0002	串木野市春日町119-2	

☆会員連絡先（住所）および勤務先変更

(地区) (区分) (氏名) (部門) (変更)

熊本	正会員	森 弘光	建設	勤：〒826-0954	熊本市上神水 1-25-11北窪ビル 2 F 基礎地盤コンサルタンツ(株)熊本支店	☎(096)386-1400 FAX(096)386-1403
福岡	正会員	荒川 直樹	建設	勤：〒870-0044	大分市舞鶴町 1-3-30 S Tビル 九州整備局大分川ダム工事事務所	☎(097)538-3391 FAX(097)538-3852
福岡	正会員	田沼 和夫	建設	勤：〒812-8577	福岡市博多区東公園 7-7 福岡県建築都市部都市計画課	☎(092)643-3710 FAX(092)643-3716
熊本	正会員	長友 光朗	建設	勤：〒862-0932	熊本市長嶺東 2-39-3 N P O法人ふるさと創生パートナーズ	☎(096)389-1015 FAX(096)389-1163
大分	正会員	松永 哲哉	建設	連：〒862-0911	熊本市健軍 1-34-3 クリスタルマンション健軍302	
福岡	正会員	森松 一典	建設	連：〒814-0175	福岡市早良区田村 3-23-35-202	☎(092)861-6376
宮崎	正会員	田中 公博	建設	連：〒880-0878	宮崎市大和町20白水舎ハイムB棟51	
福岡	正会員	中島 巧	水道	連：〒810-0022	福岡市中央区薬院 3-10-5-1003	☎(092)524-2266
北九州	正会員	會田 義彦	水道	勤：〒802-0023	北九州市小倉北区下富野 1-6-21 (株)太平設計	☎(093)551-1413 FAX(093)551-9101
福岡	正会員	井上 陽夫	建設	連：〒818-0034	筑紫野市美しが丘南 6-4-129	
福岡	正会員	市原 仁志	建設	連：〒814-0031	福岡市早良区南庄 3-17-21	
福岡	正会員	野中 久光	建設	連：〒811-3425	宗像市日の里 8-14-5 野中邦昭方	
福岡	正会員	森下 明憲	電気電子	勤：〒818-0061	筑紫野市紫 1-8-1 (株)九電工人事労務部教育センター	☎(092)922-5031
大分	正会員	福永 圭吾	機械	勤：〒870-0152	大分市牧1666 大分工専機械工学科	☎・FAX(097)552-7479
福岡	正会員	眞鍋 和義	水道	勤：〒810-0076	福岡市中央区荒津 2-2-1 中部水処理センター水質係	☎(092)721-4991 FAX(092)732-7374

福岡 正会員 佐藤 修治 機 械 勤：〒813-0043 福岡市東区名島3-24-10
福岡国道事務所 ☎(092)682-7775 FAX(092)682-7760

福岡 正会員 大田 修明 農 業 勤：〒818-8540 筑紫野市上古賀3-2-1
福岡工業技術センター ☎(092)925-7721 FAX(092)925-7724

福岡 正会員 古賀 文博 建 設 勤：〒810-8620 福岡市中央区天神1-8-1
福岡市役所下水道局河川部河川計画課 ☎(092)711-4527 FAX(092)733-5533

佐賀 正会員 久保 末吉 建 設 連：〒815-0075 福岡市南区長丘3-24-20-210 ☎(092)567-9555

福岡 正会員 川端 義弘 林 業 連：〒811-3217 宗像郡福岡町中央5-27-25サニーハイツ福岡201

福岡 正会員 藤田 浩一 建 設 連：〒816-0904 大野城市大池1-10-7第2大池ハイツ202

福岡 正会員 江口淳一郎 建 設 連：〒811-2205 粕屋郡志免町大字別府810-26-703 ☎・FAX(092)629-2264

福岡 正会員 味澤 泰夫 建 設 勤：〒862-0933 熊本市小峯2-6-26
(株)水野建設コンサルタント ☎(096)365-6565 FAX(096)367-6290

北九州 準会員 佐藤 学 電気電子 勤：〒808-0051 北九州市若松区大谷町8-31-405
三井鉱山(株)北九州事業所設備部 ☎(093)751-9248 FAX(093)751-9259

福岡 準会員 久保田史朗 環 境 連：〒816-0971 大野城市大字牛頸148-4アイリス第2大野城202

お 誘 い

第二回中国長江三峡ダム現地研修見学会

(社)日本技術士会九州支部では、1999年に引き続き、中国三峡ダムの右岸側締め切りに合わせて下記のとおり三峡ダム現地研修視察を企画致しました。

現在、第三期工事の最盛期で、既に水位は135mに上昇しており、通水施設、発電施設、永久閘門も完成し、右岸側のダム本体工事と左岸側の発電設備工事を実施している状態で、大規模な設備が完成間近であります。

そこで、上記工程を始め、技術士会等諸艘の情勢から判断して、日本技術士会九州支部主催行事として下記スケジュールで第二回目現地研修見学会を開催する事にしました。

前回同様に、福岡中国総領事館の取り計らいで、中国政府及び武漢市役所が全面的に協力していただける事になっています。

三峡ダム見学後には西安観光を計画しており、全部で8日間の行程です。日常業務で長期の休暇行使が難しい方は三峡ダム見学後帰国の5日間コースの2コースを設けています。

【計画の概要】

- (1) 主催 (社)日本技術士会九州支部
- (2) 日程
Aコース 8月31日(火)～9月4日(土)
武漢・宜昌・三峡クルーズ5日間
Bコース 8月31日(火)～9月7日(火)
武漢・宜昌・三峡クルーズ・西安8日間
- (3) 視察団規模：約50名を想定(最大80名)
- (4) 一人当たり概略費用：¥200,000/人

【申込み要領】

申込期限 6月30日(木)
申込先 (株)日中友好旅行社 担当：高尾 淑江
TEL 092-414-5383
FAX 092-414-5385

申込書 記載内容
ご住所、
本人ご芳名、生年月日
夫人ご芳名(夫人同伴)、生年月日
コース名(A、Bのどちらかに○)
TEL、FAX、E-mail

【今後のスケジュール】

- (1) 6月末 参加申込締切、視察団の陣容決定
- (2) 7月22日 参加者への説明会、各自役割分担の決定
- (3) 7月末 技術討論用質問事項取り纏め
- (4) 8月31日 出発
- (5) 9/4(A班)、9/7(B班) 帰国
- (6) 10月末 報告書取り纏め

前回の技術交流の体験上、技術的な質問事項を九州支部内三峡ダム担当宛(是永逸生先生TEL/FAX(093)751-0865 E-mail:itskore@hkg.odn.ne.jp)に7月21日(木)までに送って下さい。
簡単な質問は現地で結構です。

第二回目見学会に積極的に参加していただきますようお願い致します。又、技術士以外の方にも門戸を開く予定です。

御協力いただいている 賛 助 会 員

……………〔福岡〕……………

日本総合コンサルタント(株)九州支店
 (株)建設環境研究所
 (株)唯設計事務所
 日本建設コンサルタント(株)九州支店
 中央開発(株)九州支社
 (株)ダイヤコンサルタント九州支社
 日本工営(株)福岡支店
 昭和地下工業(株)
 第一復建(株)
 (株)松本組
 (株)エスケイエンジニアリング
 (株)東亜コンサルタント
 (株)福山コンサルタント
 (株)東京建設コンサルタント九州支店
 東亜建設技術(株)
 精巧エンジニアリング(株)福岡支店
 東邦地下工機(株)
 大成ジオテック(株)
 富洋設計(株)九州支社
 九州建設コンサルタント(株)福岡支店
 (株)サンコンサル
 (株)橋梁コンサルタント福岡支社
 (株)アイ・エヌ・エー九州支社
 (株)九州地質コンサルタント
 (株)タイヨー設計
 日鉄鉱山コンサルタント(株)九州支店
 (株)大建
 (株)エム・ケー・コンサルタント
 (株)エス・ピー・エンジニアリング
 新地研工業(株)
 (株)カミナガ
 (株)構造技術センター
 平和測量設計(株)
 (株)高崎総合コンサルタント
 西日本コトラクト(株)
 西鉄シーイーコンサルタント(株)
 町田電気管理・技術士事務所
 日本地研(株)
 第一設計(株)
 九州環境技術研究所
 西日本技術開発(株)

(株)富士ビーエス
 日本技術開発(株)
 大和コンサル(株)
 アジアエン지니어リング(株)
 ……………〔北九州〕……………

日本航測(株)
 大村技術士事務所
 (株)九州設計事務所
 九和設計(株)
 (株)都市開発コンサルタント
 (株)松尾設計
 (株)酒見設計
 (株)太平設計
 冷牟田設計コンサルタント(株)
 山九(株)鉄鋼事業本部鉄鋼技術部
 (株)安川電機
 (株)中村測建事務所
 環境テクノス(株)
 ……………〔佐賀〕……………

(株)精工コンサルタント
 新九州測量設計(株)
 西日本総合コンサルタント(株)
 日本建設技術(株)
 (株)九州構造設計
 新栄地研(株)
 ……………〔長崎〕……………

大栄開発(株)
 (株)実光測量設計
 西日本菱重興産(株)
 太洋技研(株)
 (株)親和テクノ
 (株)新栄設計事務所
 ……………〔熊本〕……………

(株)九州開発エンジニアリング
 アジアプランニング(株)
 ……………〔大分〕……………

松本技術コンサルタント(株)
 協同エンジニアリング(株)
 (株)日建コンサルタント
 東亜コンサルタント(株)
 九州特殊土木(株)
 大洋測量設計(株)

九州建設コンサルタント(株)
 西日本コンサルタント(株)
 東洋測量設計(株)
 九建設計(株)
 日進コンサルタント(株)
 ダイエーコンサルタント(株)
 ……………〔宮崎〕……………

(株)弓場水工コンサルタント
 (株)ロードリバーコンサルタント
 (株)ケイディエム
 (株)親協
 南日本総合コンサルタント(株)
 (株)宮崎産業開発
 (株)西田技術開発コンサルタント
 (有)福島測量設計調査事務所
 九州工営(株)
 正栄技術コンサルタント(株)
 (株)東九州コンサルタント
 (有)日豊測量設計事務所
 日測コンサルタント(株)
 (株)水理設計
 (株)ダイワコンサルタント
 (株)白浜測量設計
 (株)杉田測量設計コンサルタント
 南興測量設計(株)
 (株)アップス
 (有)カツキ技術士事務所
 (株)共同技術コンサルタント
 (株)国土開発コンサルタント
 (株)外山測量設計コンサルタント
 (株)都城技建コンサルタント
 (株)第一テクノコンサルタンツ
 ……………〔鹿児島〕……………

中央テクノ(株)
 朝日開発コンサルタンツ(株)
 (株)久永コンサルタント
 コーアツ工業(株)
 大協(株)
 (株)中村測量設計
 (株)建設技術コンサルタンツ

第7回CPD（A部門）の集中研修

第7回集中研修を、下記の通り開催します。

日 時：平成16年7月24日（土）10：00～17：00

会 場：福岡商工会議所（福岡市博多区博多駅前）

研修内容（CPD認定6単位）：

- ・技術者倫理特集
- ・講師依頼中

（現在、本部にて3名の講師を選定中。また、個別に支部より1名を依頼中）

参加費：3,000円（当日徴収）

申込み：九州支部宛FAX（部門、氏名、住所、電話番号記載のこと）

今回は、技術士が責任を全うすべき倫理等についての特集で、詳細が決定次第、支部から、開催案内と参加申込み受け付けのご連絡をFAX等で行います。
（支部・CPD委員会）

会誌“技術士”最近の主要目次

〔PE〕技術士3・2004

- ・目利きになれ／井上 滉
- ・情報社会における技術者倫理の位置づけ／黒澤兵夫
- ・バイオマスエネルギー利用技術の動向／林 洋
- ・色素増感太陽電池の特長とナノ材料について／小柳嗣雄
- ・技術士の活用促進について／小出 剛
- ・土木学会のCPD／片山功三
- ・環境マネジメントセンターの活動について／吉澤光男

〔PE〕技術士4・2004

- ・技術の進歩と技術士の使命／平井浩二
- ・青函トンネル工事に見る技術者の安全と倫理／本田尚士
- ・太陽と水素エネルギー／新貝和照
- ・不織布の技術的進歩と医療用具の開発／清水忠治
- ・日本機械学会における継続教育の活動／本阿弥眞治
- ・海外における技術士活用の促進／村田稔尚
- ・カンボジアにおける技術者研修への協力活動／高城重厚

〔PE〕技術士5・2004

- ・ある研究開発の起承転結／國中 明
- ・マレーシアの技術者倫理教育ワークショップ／高城重厚
- ・プラチナ基金属ガラスの研究開発／清水 進
- ・特許係争への対応／松居宏典
- ・化学工学会における技術者継続教育について／橋谷元由
- ・九州支部の活動／泉館昭雄
- ・名誉会員制度の変更について

編集後記

技術士法の改正により、一次試験受験者が激増し、多数の修習技術者が誕生しました。この傾向は今年も続きそうです。これらの方々が、技術士二次試験合格を目指し、これまでとは比較にならない数の技術士が誕生することになります。技術士会としても、修習技術者の教育に対して、抜本的な取り組みが求められるようになってきています。一方で、若い技術士が年毎に激増し、技術士会を取り巻く環境も大きく様変わりしようとしています。

このような動きに対して、本部の青年技術士懇談会が中心となって、各支部の青年技術士グループと連絡を取り合って、青年技術士ネットワーク構築に向けた動きが始まっています。これを踏まえ、九州支部でも新たな部会（第7部会）として青年技術士部会が、総会での承認を受け、発足することになりました。

九州支部の広報委員長として、「技術士だより」の企画・編集、「ホームページ」作成等にご尽力されました完戸 鶴先生が退任されることになりました。完戸先生に厚くお礼を申し上げます。（棚町）

発 行：(株)日本技術士会九州支部

九州技術士センター

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街7-1
（シック博多駅前ビル204）

九州支部： ☎(092)432-4441

FAX(092)432-4442

E-mail：engineer@joho-fukuoka.or.jp

九州支部ホームページ URL：

http://www.joho-fukuoka.or.jp/kigyo/engineer

センター： ☎ / FAX(092)432-4443

印 刷：(株)川島弘文社